



営農NEWS



バレイシヨの疫病、アブラムシ類などの発生に 注意し、防除を励行しましょう

今年のバレイシヨ栽培では、現在のところ、多くは順調な生育で推移しています。これから着蕾から開花期に入っていきますと、疫病等が発生しやすい生育ステージになります。気象の1ヵ月予報(5月4日発表)によりますと、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い予想となっております。発生には適さない条件ですが、今後とも気象情報に十分注意し、降雨が予想される場合には予防散布や発生初期の防除を必ず実施してください。

また、バレイシヨに寄生するアブラムシ類は、直接的な吸汁被害を生じる他にウイルスを媒介してモザイク病を発生させます。1ヵ月予報では、平均気温が平年より高く、降水量が少ない予想で、アブラムシ類の発生には適した条件となりますので、発生初期からの防除が必要になります。なお、モザイク病に感染した株は回復の見込みが無く、他への伝染源となりますので、早急に抜き取り、適切に処分してください。

これら病害虫は被害の進展が早急なため、圃場をよく観察して早期発見に努め、適切な防除に努めてください。

<防除のポイント>

1. 疫病

- 1) 開花期以降になると発病しやすくなるので、開花はじめから薬剤防除を実施してください。天候が不安定で、降雨が続くような場合には、定期的な薬剤散布に努めてください。疫病は多発生してからでは防除が困難となりますので、予防散布または発生初期の防除が重要になります。
- 2) 窒素肥料の効きすぎや軟弱徒長の株は発病しやすいので、特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布は、十分量(200ℓ/10a)の薬液で、葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。
- 4) 収穫期に降雨があると、イモに病原菌が流れて感染し、表面にやや陥没した褐色病斑が形成されて商品価値を失う場合があります。収穫後の被害を抑制するため、収穫は晴天の日を選び、乾いた後に貯蔵しましょう。

2. アブラムシ類、モザイク病

- 1) 圃場周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源やウイルスの保毒源となりますので、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めましょう。
- 2) モザイク病の発病株は、早急に抜き取り、近くに放置せず、圃場外に持ち出して適切に処分してください。

表1 バレイシヨ 疫病の主な防除薬剤(平成29年5月8日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ペンコゼブ水和剤 ※※	400~600倍	収穫7日前まで / 10回以内
ジマンダイセン水和剤 ※※		
ゾーベック エニケード	5,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
ランマンフロアブル	1,000~2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内
ザンプロDMフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 3回以内
フォリオゴールド ※	500~1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ※	750~1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
ブリザード水和剤 ※	800~1,500倍	収穫7日前まで / 4回以内
カーゼートPZ水和剤 ※※	600~800倍	収穫7日前まで / 4回以内

注) 表中の※印がある薬剤は有効成分TPNを、※※は有効成分マンゼブを含みます。
バレイシヨにおける総使用回数に十分注意してください。

表2 バレイシヨ アブラムシ類の主な防除薬剤(平成29年5月8日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
コルト顆粒水和剤	4,000~8,000倍	収穫前日まで / 3回以内
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫3日前まで / 6回以内
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
ウララDF	2,000~4,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
アディオン乳剤	2,000~3,000倍	収穫14日前まで / 4回以内
チェス顆粒水和剤	5,000倍	収穫14日前まで / 3回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA全農いばらき

生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040